



校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校

学校便り 10月2号

令和7年10月23日発行

「心を一つに」集合知性が天才知性を上回る ～地区大会からその先へ、近づくMコン～

校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

2学期も中盤を迎えている。「2学期は結果が求められる期間」という話をしてきた。地区駅伝、ドリカム、地区新人、中間テスト等を終え、自分の目標や理想に対し、どの程度の結果を得られているだろうか。

10月14日、サッカー日本代表が、親善試合でブラジルから国際Aマッチ(フル代表同士の試合)における初勝利を挙げた。1989年の初対戦からこれまで13戦11敗2分。今回も前半に、ブラジルの見事なコンビネーションにより最終ラインを突破され2失点と、「やはり格が違う」と感じさせる試合展開であった。ただ、選手の気持ちはまったく違ったようである。もともとフィールドプレイヤーの陣形も直前に韓国がブラジルに対し0-5で大敗していたため、本来の日本の陣形より守備を増やした形であったが、この体系はうまく機能しなかったと選手が振り返っており、そのため、2失点も「やられた」という感じではなかったという。ハーフタイムで選手は状況を冷静に分析し、意見を交わし合い、相手に攻め込まれるリスクは高まるものの引き気味になっていた陣形をもとに戻し、高い位置(相手ゴール近く)で相手にプレスをかけて(プレッシャーをかけ、ボールを奪いに)行くことを確認した。バックが少なくなった分、その前の選手も1対1で負けないという意識が高まり、局所で相手を上回った。これらが徐々にブラジルの焦りを誘っていく。それが相手のミスを呼び、セットプレーで相手の考えを上回る戦術で逆転し、勝利を収めた。

試合前、ロッカールームで南野選手が「親善試合じゃなくて、歴史を変える試合にしよう」と皆を鼓舞し、ハーフタイムでは、「厳しい試合展開のなかで、後半をどのように修正したらいいのかわ、冷静かつ建設的にコミュニケーションを選手は取っていた。」と森保監督。堂安選手も「拓実(南野)君と僕が先頭に立ってロッカールームで声をかけました。」そのうえでピッチに立つ選手はそのまま、後半の戦い方だけが改められた。続けて、「森保さんが外から見ていた感覚に対して、選手のみんなはどう感じているのか。そういった意見も聞きながら、みんなで擦り合わせた上で『これでいこう』という決断をチーム内でまとめられた。」とインタビューに答え、鎌田選手も「監督からは『後ろのままにするか、それとも前からいくか』という話があって、そのなかで『前からはめていこう』と。後半はリスクを冒した守備のもとで、対人の部分で相手を上回れたと思う」と振り返っている。



国際親善試合10/14日本対ブラジル戦より Photo:JFJ

自分たちがもっている力をいかにすれば発揮できるか。

チームであれば、「心を一つにする」ことである。個人であれば、「自分を信じる」「自信をもつ」ことに尽きる。いずれも「迷いがない」「ブレない」ということに通じる。

心を一つにすれば、知性の部分でも力が発揮される。これを「集合知性」という。一人では浮かばないアイデアを複数人で考えることで、天才でも思いつかないアイデアが浮かぶことが証明されている。

自分たちは何をを目指しているのか。そのためにどうすればいいのかわ、先生、監督、コーチに方法を教えてもらうことはできよう。ただ与えられたものでは続かない。自分たちでコミュニケーションをとり合い、繰り返し議論を重ね、方向性ややることを揃えていかななくてはならない。勉強も一人ではなかなか進まないのではない。仲間、学級で取り組むこともよい方法である。学級で考えて、授業の受け方、宿題の提出、テストの出題のポイントなどみんなで話し合い、決め事や予想問題の作成などに取り組んでいくと格段に成果が出る。地区大会もしっかり振り返って、「心を一つに」に「集合知性」を働かせ、この先に取り組んでいこう。それからMコンまでもあと8日。ここでも「心を一つに」が、力を出し切るための重要なポイントであることは言うまでもない。これまでの最高の姿を発表しよう。[SOCCER DIGEST Web・「科学的に幸せになれる脳磨き 岩崎一郎著」より]

吹部第45回定演

表題のとおり、第45回目を迎えた本校吹奏楽部の定期演奏会が国分ハウジングホール(霧島市民会館)で9月28日(日)14:00から2時間近くにわたり行われた。45年続いている定演。45年前と言えば、私ですらまだ中学生である。長い期間、吹奏楽や部に対する熱い思いが引き継がれていることにまずは敬意を表したい。この定演は、3年生にとっては最後の大舞台。その3年生が紹介される場面もあった。皆、とてもいい表情だった。2部では卒業生や先生方も一緒に演奏する場面があった。よき伝統の営みを感じる場面だった。また、会場には在校生、保護者の方々、他校生の姿もあり、その一体感が素晴らしかった。私が個人的に心を惹かれたのは、「A new singer」である。コンクールで聴いていたが勢いやメリハリがより一層増している印象をもった。それぞれの奏者に惹きつけられる感覚も覚えた。

3年生がフィナーレを迎え、これまでもそうであったように、その想いや国分南中吹奏楽部の伝統は1, 2年生に託される。伝統と伝承は違う。伝統は少しずつ変化が加えられていくものである。これからの吹奏楽部のさらなる成長に期待したい。

チャレンジの秋

どうやら気候的にも秋を迎えた秋を迎えたようで、街路樹の葉の色の変化が見られるようになった。中間服の生徒もちらほら出てきている。秋と言えば、「勉強の秋」とか「読書の秋」などと言われる。過ごしやすい気候であることから、何をするにも適しているという意味である。

そこで、何かに取り組んだり、取り組みはじめたりしてみてもはどうだろうか？既に英検や漢検、絵画や作文コンクール、駅伝クラブ、南中コーラスなどに取り組んできている人もいる。何かにチャレンジすることは自分のキャリアアップとなるのはもちろん、取り組むこと自体、人間性などの非認知能力を伸ばす機会となる。やり始めることが最も重要である。そしてしばらくの間続けていけば、少なからず成果が出る。そうすると、続けようとする意欲が湧いてきて、やがて好循環ができていく。今年は、「チャレンジの秋」と銘打って、何かに取り組んでみてはどうだろうか。私は、運動不足解消のために、縄跳びでも始めてみようかと思っている。

受賞・表彰

9/28 始良東部地区女子バレーボール大会 優勝

地区総体 駅伝競技 10/2 男子3位、女子5位 区間賞男子2区1位、6区2位、女子1区3位

10/5 南日本ジュニア美術展 入選2名

地区新人大会 バレーボール競技男子3位 女子1位 卓球競技女子団体Aパート2位、Bパート3位
女子シングルス3位 剣道競技男子1年個人1位

10/14 海の絵画コンクール 佳作(1名)

〔11月の主な行事予定〕

1日(土)県民週間～7 3日(月)☞文化の日 4日(火)生徒集会(任命式、引継式含む)

6日(木)音楽の集い、県駅伝競走大会、地区ダンス発表会 7日(金)学校専門部会

8日(土)土曜授業、PTAバザー 10日(月)職員会議 11日(火)全校集会 13日(木)地区新人陸上

14日(金)期末テスト前部活動停止～20 17日(月)研究授業、主権者教育提供授業 18日(火)学年集会

19日(水)2学期末テスト～21 20日(木)国分南小での出前授業 ㊶国分西小での出前授業

23日(日)☞勤労感謝の日 24日(月)振替休日 26日(水)第2回公民館長・民生委員等連絡会

28日(金)2年命の講話、第2回7校PTA

※ あくまでも予定ですので、変更等が生じる可能性があることを予め、了解ください。